

調査対象者
西東京市に在住の
20歳以上70歳未満の男女2,000人

抽出方法
平成15年1月1日の
住民基本台帳より無作為抽出

調査期間
平成15年1月9日 - 1月20日

調査方法
郵送配布、郵送回収

有効回収数(率)
848人(42.4%)

西東京市では、男女平等参画社会の実現に向けて「男女平等参画推進プラン」を策定するにあたり、「男女平等に関する西東京市民意識・実態調査」をしました。ここに、調査結果の一部を紹介し、男女平等の視点に立って考えてみましょう。

女性も男性も「男性の方が優遇されている」と答えている結果が出ています。

あなたは どうも考えたか?

女性であるがゆえの生きにくさとして「家庭をもつと家事全般を行う責任がある」と58.2%の人が答え、次いで「女性特有のからだの機能による体調不良がある」46.1%、自分の意志で物事が決めづらい」24.3%の順となっています。

男性であるがゆえの生きにくさとして「家庭をもつと家計を支える責任がある」と66.2%と最も多く、次いで「仕事を優先し、家族とゆとり過ぎず時間が無い」49.7%、「所属する組織によってランクづけされる場合がある」26.8%となっています。

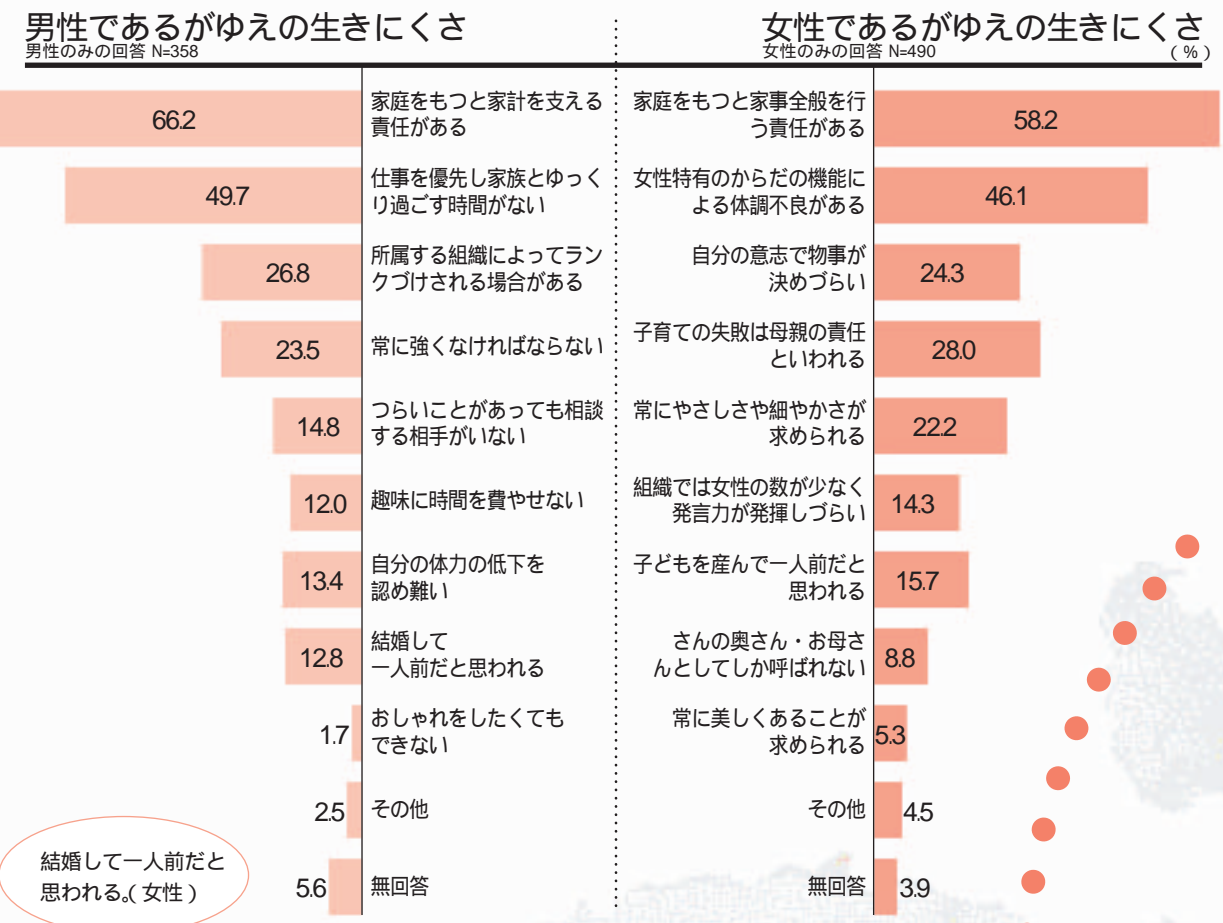
働くことを強制される。(男性)

男はこうあるべきという周囲の固定観念。(男性)

こんな意見もあります...

生きにくさ

あなたは「女性であるがゆえの生きにくさ」「男性であるがゆえの生きにくさ」としてどんなことがあると思いますか。(3つまで)



結婚して一人前だと思われる。(女性)

これらのことは限度を超えていなければある程度は仕方ないことだと思う。(男性)

男女共に、自分でできることは自分でやることと、自分以外の人に自分が何をすれば喜んでくれるか、しっかり考えて行動しない限り、どちらの性も生きにくさは解消しないと思います。(女性)

こんな意見もあります...

結婚や出産を理由に仕事を続けにくくなる風習が一般にまだ根強く残っているように思われる。(女性)

男女の地位の平等感

男女の地位の平等感について、現状ではいずれの分野においても「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方が多くなっています。特に「政治の場で」「社会通念・習慣・しきたりなど」では、「男性の方が非常に優遇されている」と答えた方の割合が高い傾向が見られます。また、「男女の地位は平等になっている」と答えた方が多い「学校教育の場」でも、「男性の方が非常に優遇されている」とどちらかといえば男性の方が優遇されている」が2割いるという結果が出ています。

あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目ごとに1つずつお答えください。

